

株式会社日本政策投資銀行第5期（2013年3月期）

決算説明会における主要な質問と回答

2013年5月22日に開催いたしました株式会社日本政策投資銀行第5期(2013年3月期)決算説明会におきまして、投資家等の皆様から頂いた主要なご質問と、当行からの回答を掲載いたします。

Q. 電力セクター向けの貸出金残高の増減について教えてください。

A. (副社長 柳 正憲)「電気・ガス・熱供給・水道業」というカテゴリで開示しておりますのでこちらでお答えさせていただきますが、2013年3月末の貸出残高は2兆8,000億円程度となっており、前期末比で5,000億円弱増加しております。

Q. 競争力強化ファンドの今後の取り組みについて教えてください。

A. (副社長 柳 正憲) 2013年度に入ってから、①SFソーラーパワー、②日本電気の2件について、「競争力強化ファンド」の対象として取り組むことを決定しております。今後も当ファンドについては、「投融資一体」という当行の特色ある機能を活かしながら、通常案件同様、審査・リスク管理等を適確に行いながら意義のある案件に積極的に取り組んでいく方針です。

Q. 競争力強化ファンドのリスク管理方針について教えてください。

A. (副社長 柳 正憲)「競争力強化ファンド」における投融資は、当行がこれまで培ってきた投融資一体のビジネスモデルにかかる審査機能、モニタリング機能を十分に活用する観点から、別組織化せず、当行本体がリスクマネーの供給を行うこととしております。そのため、リスク管理方針は当行のものと一体的に、株式会社として求められる適正な意思決定プロセスの下行われることとなり、重要事項については社外役員を含む取締役会による意思決定が行われます。

また、投融資案件の選定・採択についても、内部規程に従い、通常の案件同様、適切に実施しております。

加えて、当ファンドの運営に当たっては、外部有識者5名をアドバイザーとして迎え、広くその知見を活用しながら、適切な運営に努めております。

Q. 「DBJ スマートジャパンプログラム」と新しく設立された「競争力強化ファンド」は投融资の対象が類似しているように見えるが、主な相違点は何か、投融资先の棲み分けはされているのか、について教えてください。

A. (副社長 柳 正憲) 「DBJ スマートジャパンプログラム」と「競争力強化ファンド」は、ともに当行独自の取り組みであり、類似している部分はありますが、創設した背景が異なります。

「DBJ スマートジャパンプログラム」は、震災からの復興をベースとして、企業の成長支援を行うという趣旨で創設しております。

一方、「競争力強化ファンド」については、「オープン・イノベーション」をキーワードに、新たな事業の創出等を目指す企業に対し、その競争力強化に向けた前向きな取り組みを支援することを目的として創設したものです。

また、「DBJ スマートジャパンプログラム」は融資を中心として想定しているのに対し、「競争力強化ファンド」は、劣後ローンや優先株等の「リスクマネー供給」に特化している点も大きな特徴です。

投融资対象については、「DBJ スマートジャパンプログラム」なのか、「競争力強化ファンド」なのかといった厳密な線引きを行っている訳では無く、それぞれのプログラムの趣旨やお客様のニーズに応じて、その活用を図っていく所存です。

Q. 今後の配当政策について教えてください。

A. (副社長 柳 正憲) 直近2カ年の実績は、配当性向25%の基本配当に加え、現下の諸状況を勘案し、特別配当分25%を加味して50%配当を行ってきたところです。2013/3期についても、引き続き特別配当を加えた配当性向50%で調整しております。

今後については、時々の諸事情も含めて総合的に勘案のうえ対応していきたいと考えておりますが、株式会社として、収益性と公益性を両立させながら、基本的には安定配当を継続して実施することが肝要であると認識しております。

以上